

リフレクションカード 2024年度前期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者が受講生17名中8名のみであったため、評価は受講生全体のリアクションを反映していない。 本科目では、助産の基盤となる事柄に関する知識を教授するとともに、助産に関連する実際に起こっている出来事等の最新トピックスを提示し、ミニ討議の機会を多く設け、自分とは異なる意見や考え方を知るとともに自分の考えについて振り返る時間を設けた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員S評価(最低96点、最高100点)であった。 授業内でのミニ討議は、ペア討議→グループ討議→全体討議の形で進めたが、その内容は、助産師を志す学生として充実したものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、助産の基盤となる必修科目である。助産の概念および助産に関連する理論、助産師の歴史、法的な位置づけなどの知識を教授するとともに、専門職としての責務を学び、助産師としての自覚を促すこと、さらには、倫理的課題に対する姿勢、医療チームや関連機関等との連携・調整のあり方について考察する内容とした。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業内での口頭およびミニッツ・ペーパーにて質問・意見・感想をフィードバックしてもらい、質問については次の授業時に回答した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は4月～5月の集中講義であり、授業評価の時期が授業終了後数週間経過してからであったことから回答者が受講生17名中8名のみであった。次年度は回答率が高まる方法を担当部署とともに検討する。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	助産別科
氏名	恒松 良祐

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①助産別科は全員が資格取得を目指している。受講動機をみると「必須科目である」、「資格取得に必要である」と本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。また、本科目は「理論領域」であり実習や「専門科目」を支援する基礎科目である。 ②講義資料や内容の工夫などを行い、基礎的な病態生理や症例の実際を視覚的に理解できるように努めている。 ③現在、ほとんどの病院やクリニックで妊婦健診（医師外来および助産師外来）の際、超音波検査を実施している。そのため超音波検査の技術演習（医師が担当）を取り入れ、より実践に近い授業の組み立てを行っている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値71.29（±9.79）はであり、昨年の79.73（±8.69）より8ポイント低い結果であった。標準レベルに達した学生は7名、理想的レベル（概ね80点以上）に達した学生は4名であった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが、専門性のレベルは高いといえる。クラスの過半数の学生が標準レベルに達しており、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組んだ結果だと考える。定期試験の結果は学生にフィードバックを行い、今後の実習や国家試験に活かせるように工夫している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の「理論領域」に位置する「基礎科目」であり、必須科目である。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 本科目は助産の「理論領域」に位置する「基礎科目」であり、助産師として必要な知識・理解を有する科目であるため、ほぼ全員が真面目に講義や演習に取り組んでいた。また、成績においてもほとんどの学生が、標準レベルに達している。 以上のことから、内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。成績においても、ほとんどの学生が標準レベルに達している状況をふまえ、授業の進め方は妥当であったと考える。ただ、他教科との課題の調整などを考慮しても、助産別科の授業は集中講義であるため、どうしても課題等が重なることがある。学生がより余裕をもって、授業の課題に取り組んだり、準備をしやすいうように、事前に講義資料を配布するなどの工夫を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の「理論領域」の「基礎科目」である。成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生の努力がうかがえる。今後、学生が学習時間の確保ができるように引き続き、他教科と調整を図るとともに、基礎科目として持続的に学習に取り組めるよう支援していきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は助産別科の「理論領域」の「基礎科目」に位置づけられている。前半は周産期の心理、マタニティサイクルの心理的特性、母性・父性の意識と親役割の獲得と関係の形成、マタニティサイクルにおけるメンタルヘルスの重要性と課題について解説した。後半は社会的側面から、現代社会における女性や子ども・家族を取り巻く特徴や課題、支援方法について解説した。講義終了後に講義の感想および質問を提出してもらい、質問に関しては次回の講義でフィードバックを行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は83.47（±6.26）であり、昨年度の数値82.6（±5.87）と比較すると、ほぼ同様の成績であった。標準レベルに達した学生は1名、理想的レベル（概ね80点以上）に達した学生は15名であった。講義の際に質問などもあり、意欲の向上に寄与したと考えられる。ほとんどの学生が理想的レベルに達しており、本科目の目標は達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の「理論領域」に位置する「基礎科目」であり、必須科目である。その内容は、学科のDP1、DP3に対応している。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 2022度から始まった新カリキュラムに伴い、助産の「理論領域」に位置する「基礎科目」として位置づけられている。助産師として必要な知識・理解、関心・意欲を有する科目である。ほぼ全員が欠席することなく、受講できていた。また、成績においてもほとんどの学生が標準レベル以上に達しており、内容的には妥当であったと考える。 以上のことから、内容的に妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は講義の形式をとっている。親役割や母子関係・父子関係のプロセス、ライフサイクル各期の発達過程、周産期における女性と家族の心理、社会的側面から現代社会における女性や子ども・家族を取り巻く特徴や課題、支援方法など教授するテーマは多岐にわたっている。講義時間内に学生同士の話し合いの時間や質疑応答の時間を設けることは難しかった。2022年度より新カリキュラムが始まり、周産期におけるメンタルヘルスがより一層重要視されていることから、心理学・社会学の両側面から母子を取り巻く状況や支援について学修できるように工夫をした。今後も世の中の状況に合わせた授業内容にしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績や学生の到達度に関する自己評価から、本科目の目標は達成できたと考えられる。本授業は、オムニバス方式の講義である。各担当との連携をとりながら、より学生が学びを深めることのできる授業を目指したい。

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。今年度は「関心のある内容である」が12%と昨年度と同程度であった。受講前は関心は低いが、本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。 ②今年度も対面での講義であった。栄養学科同様、スライド資料を作成し配付した。資料にはポイントを書き写すことのできるスペース等も設けた。 ③学修準備性に関しては、約41%の学生が予習・復習をやってないと回答している。今年度は復習の小テストを導入したが、講義の復習はよく出来ていた。また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習復習課題を出すことはしなかった。但し、助産別科で学ぶ間（修了後も）に母子の栄養に関する質問があればいつでも受け付けることにしている。今後もそのようにしていく。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は16名の受講生中、A(秀)が17.6%、B(優)が64.3%と多く、C(良)11.8%であり、秀および優の割合がとても多かった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、82%に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、うち理想的レベルが8割を越していることは、結果として本科目受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高いだけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約41%の学生が予習を一度もしていなかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。 また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、41%の学生が予習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると考えている（例：長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等）。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は76%と高かった。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。 予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかなければならないため、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく予定である。また、「指導案を作成する時に活用できた」との意見も頂き、他分野の学生でも楽しく聞けて、今後の仕事に活かすことが出来るような講義を続けたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①助産診断・ケア学については演習科目であり、学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。本科目は助産の「実践領域」に位置づけられている「専門科目」である。必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。 ②本科目では、母性看護学の知識をベースに助産の専門知識が積み重ねられるため、既に持っている学生の知識を整理しながら、主体的に学ぶことができるように工夫した。学生自身が自ら考え、意欲関心が得られるように、課題を提示して、個人ワークやグループワーク、発表、ディスカッションを取り入れるなどの工夫をした。 ③演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう模擬妊婦体験を行いその体験を共有するとともに、基本技術の習得、妊婦と助産師役、第3者の視点も含め助産師外来のロールプレイを行い、知識理解を思考判断や技能表現に結び付けられるような内容を組み立て取り組んだ。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は74.82（±4.44）であり、成績のばらつきは大きくなかった。また昨年度の成績71.99（±5.47）と比較しても大きな変化はなかった。12名の学生が標準レベルに達しており、3名の学生が理想的レベル（概ね80%以上）に達していた。再試験対象者いなかった。DPの目的別にみると、知識理解に関しては72.6%、思考判断に関しては75.9%、関心意欲に関しては60%、態度に関しては84.7%、技能表現に関しては74.1%の標準レベルの達成度であった。 ②学生の授業における態度は、すべての学生が真剣に取り組んでいた。専門科目の中でも最初にスタートする科目であり、模擬妊婦体験や個人ワーク、グループワークなどを取り入れることによってより主体的に学修できていたと考える。 今後も学生が、知識理解を身につけ、思考判断を行い、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。全体的な評価として、学生は意欲的に学習に取り組み目標を達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と思考判断、態度、技術を身につけることが必要とされる。知識理解、思考判断のほか技術表現、態度も含めた総合的な力が必要である。一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DPすべてにおいて、ほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であったと考える。 以上のことから、内容は妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この科目は、短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。関心意欲に関する達成度が昨年より低かったため、引き続き同様の形式で授業を進めていきつつ、より関心意欲が持てるように工夫していきたいと考える。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。成績や授業評価アンケートより、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、さらに専門職を目指すものとして、総合的な力が向上していけるように学生の意見も取り入れながら、課題や講義・演習等の内容を検討していきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は助産別科のカリキュラムにおいて、助産の「実践領域」の「専門科目」に位置付けられている。安全・安楽なマタニティサイクル支援として、必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。 ②本科目は、母性看護学の知識をベースにして、助産の専門的知識が必要となるため、スムーズに講義に入れるように事前に予習を提示し、講義に臨むよう促した。学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、個人やグループで主体的に考える機会を取り入れるなどの工夫した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、学生が自己学習を行ったうえで臨めるように工夫した。産婦人科診療ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準にそって、また科学的根拠を持って、技術を習得できるよう意識づけを行った。 ③実習において必須である、分娩介助などの助産診断に伴う技術に関しては、学生の理解度を確認しながら進めていった。具体的にイメージができるよう基本技術に加え、デモストや事例を用いて演習を組み立てて取り組んだ。また、基礎実習が終了後に応用編として外部講師によるフリースタイル分娩の講義・演習を取り入れている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は78.9点（±5.5）でありばらつきは大きくなかった。8名の学生が標準レベルに達しており、8名の学生が理想的レベル（概ね80点以上）に達していた。DPの目的別にみると、平均点から知識・理解に関しては81.2％、思考・判断に関しては69.8％の達成度であった。小テストを取り入れ、解説を提示するなど、知識理解が定着するように工夫した。また、技能表現に関しては、分娩進行の情報を捉え、アセスメントを行い必要なケアを考え、実施するという一連の流れの演習を取り入れることで、実際の臨床に近い形での技術の習得に努めた。内容的に専門的知識と思考判断を統合していく難しさもあったが、学生が意見交換を行い、解説をしていくことで共通の理解を得られたと考える。幅広い知識と思考判断・技能表現の修得には、経験と時間を要するため、今後の実習などを通してより深めて行くことを期待する。 ②学生の授業における態度は、すべての学生が真剣に取り組んでいた。単元ごとの小テストにも真剣に取り組む姿勢がみられた。今後はより一層、学生自身が自分の知識を身につけ、自信を持って、演習に取り組めるようサポートを行っていく必要があると考える。全体的な評価として、各学生が意欲的に学習に取り組むことができたのではないかとと思われる。その結果、教育目標は達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解、思考判断のほか技能表現、態度も含めた総合的な力が必要である。学生は一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DPすべてにおいて標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であったと考える。 以上のことから、内容的に妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して、授業を進めていった。引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。今年度は、学生から演習の様子を動画に残したいとの要望があり、学生の意見を取り入れ演習を実践していった。次年度も学生と対話をしつつ、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように援助していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の「実践領域」の中核となる「専門科目」である。授業成績や授業評価アンケートより、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、学生の思考判断や技能表現が向上していけるように課題を含め、講義・演習の内容等の工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は助産別科のカリキュラムにおいて、助産の「実践領域」の「専門科目」に位置付けられている。安全・安楽なマタニティサイクル支援として、必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。 ②本科目は、助産の基礎的知識に加え、周産期のハイリスクに関連する領域であり専門的知識がより必要となる。講義前に予習ができるように、講義資料の事前配布を行った。また本科目は、臨床の現場で活躍されている非常勤講師と専任教員がオムニバスで授業を展開しており、臨床での実践がイメージできるよう組み立てている。技術演習（医師が担当）では、全学生が会陰縫合の技術を経験でき、指導が受けられるように配慮している。また、産婦人科診療ガイドライン、ハンドブックを活用し、ガイドラインに沿った学修ができるように工夫した。 ③知識理解や思考判断が助産ケアの実践に結びつくように、シュミレーション演習等を行った。また、実習で経験するであろう疾患を課題として提示するなど工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は74.6点（±3.18）であり、ばらつきは大きくない。16名の学生が標準レベルに達していた。周産期のハイリスクは、正常からの逸脱について知識を身につけ、思考し判断できることを目標としているため、講義内容の専門性は高い。母性看護学の知識を基盤に、並行して学習する助産の実践領域である専門科目「助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳ（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）」の正常の範囲と関連付けて学習することが必要である。正常逸脱に関する学修には、予習・復習が必要であると考ええる。全体的な評価として、学生は意欲的に学習に取り組むことができたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であり、必須である。学生は、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 ほぼ全員がまじめに授業に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。 以上のことから、内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。2022年度より新カリキュラムが始まり、指定規則の中でも、周産期のハイリスク分野に対する学習の充実を図るように明記されている。そのため、より一層学生の学びを援助していきたい。また、正常領域の科目の授業も並行しているため、相互に関連付けながら学習していけるよう配慮する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の実践領域の専門科目である。また成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、疾患や治療など正常からの逸脱について理解するためには日々の予習・復習が必要であり、学習量を確保することは常に必要である。今後、学生が学習時間の確保ができるように他教科と調整を図るとともに、正常領域と関連付けて学習していけるよう工夫していきたい。

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており（特に海外において）、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。 昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.8（±3.9）点であった。受講者17名を成績分布別にみると、90点以上が1名、89～80点が15名、79～70点が1名であり、94％の学生が理想的レベルに達していた。 授業評価アンケートに回答した7名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が3名（43％）、「わりにそうだと思う」が3名（43％）、「まあまあそうだと思う」が1名（14％）とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）については、「かなりそうだと思う」が4名（57％）と3名（43％）、「わりにそうだと思う」が2名（29％）と3名（43％）、「まあまあそうだと思う」が両質問項目とも1名（14％）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3～4.4）。 「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）については、「かなりそうだと思う」が両質問項目とも3名（43％）、「わりにそうだと思う」が両質問項目とも3名（43％）、「まあまあそうだと思う」が両質問項目とも1名（14％）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が4.3～4.6であったことから、授業の進め方は良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の数（割合）は、6回が1名（14%）、4,5回が1名（14%）、1回が2名（29%）、0回が3名（43%）であった。1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、6回が2名（29%）、4, 5回が1名（14%）、1回が2名（29%）、0回が2名（29%）であった。 また授業課題以外の学習については、5名（71%）の学生の取り組んでいなかった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたとする。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人間関係とコミュニケーション	1	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、助産実践の基盤となる対人コミュニケーションの基礎的知識を修得するとともに、自らのコミュニケーションの特徴を振り返ること、助産実習において母子や臨地の多様な人々とより円滑な人間関係を築くことができる態度を培うことを目的とした。選択科目であるが、必修科目との認識をしている学生が5名と多かった。履修指導において、推奨科目としているものの必修科目ではないことを明確に伝える必要がある。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生17人中8人（47％）のみの回答であり、残り9人（53％）が未入力であるため、結果の解釈には限界があることを念頭に置く必要がある。 授業の予習は0回5人、1回・2～3回・4～5回が各1人、復習は0回5人、1回1人、4～5回2人と、1回ごとに完結する実践的な演習を中心に展開したことや「他の科目の課題で時間確保が難しかった」との記述に見られるように、助産別科の集中講義の中に位置付けられていることが影響した。次年度は、次の演習のキーワードを授業の最後に示す等、授業時間外の準備を促す仕組みを設けることとする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講生17人中8人（47%）のみの回答であり、残り9人（53%）が未入力であるため、結果の解釈には限界があることを念頭に置く必要がある。 本年度は、昨年度の結果をふまえ、臨床場面で役立つ対人コミュニケーションのシミュレーション演習を取り入れ、実践的な学びを中心に展開した。その結果、到達度自己評価では、中央値は全ての項目で4.0点、本科目の目的とするコミュニケーション力の向上に関する評価項目「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.4点、他の項目も4.3～4.4点と昨年度に比し高評価となった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教員への意見はなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	上記を踏まえ、次年度は、予習復習を促す仕組みを導入しつつ、本年度と同様、臨地で役立つ実践的な演習を中心に展開することとする。